



東九州自動車道(寺泊ちようちよ大橋)

確かなものを 地球と未来に  
 一般社団法人 **日本建設業連合会 九州支部**  
 JFCC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS KYUSHU BRANCH OFFICE  
 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目3-22 産恵ビル3階 TEL 092-451-6244 FAX 092-481-0941

編集・発行 **総務広報委員会**

一般社団法人 日本建設業連合会 本部・各支部

<b>本 部</b>	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2丁目5-1 TEL03-3552-3201 FAX03-3552-3206	
<b>北海道支部</b>	〒060-0004 札幌市中央区北四条西3丁目 TEL011-261-6243 FAX011-261-2528	北海道
<b>東北支部</b>	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3 TEL022-221-7810 FAX022-265-9465	宮城・青森・岩手・秋田・山形・福島
<b>関東支部</b>	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2丁目5-1 TEL03-3552-3208 FAX03-3552-3206	東京・茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・山梨・長野
<b>北陸支部</b>	〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1 TEL025-285-8886 FAX025-285-8884	新潟・富山・石川
<b>中部支部</b>	〒460-0008 名古屋市中区栄3-28-21 TEL052-261-3808 FAX052-261-4363	愛知・岐阜・静岡・三重
<b>関西支部</b>	〒540-0031 大阪市中央区北浜東1-30 TEL06-6941-3658 FAX06-6942-4031	大阪・福井・滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山
<b>中国支部</b>	〒730-0051 広島市中央区大手町2-11-15 TEL082-243-3017 FAX082-242-2380	広島・鳥取・島根・岡山・山口
<b>四国支部</b>	〒760-0026 高松市磨屋町6-4 TEL087-851-6969 FAX087-851-3176	香川・徳島・愛媛・高知
<b>九州支部</b>	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4-3-22 TEL092-451-6244 FAX092-481-0941	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

(一社)日本建設業連合会ホームページ <http://www.nikkenren.com/>  
 日建連のホームページには、建設業に関する基本データ、戦後の建設業界の関連年表、全国の土木博物館一覧表、また、他では見られない迫力ある土木写真など、お役に立つ情報が満載です。ぜひ、アクセスしてみてください。



堀切峠・日南海岸

# Message

支部長ご挨拶



(一社)日本建設業連合会  
九州支部 支部長

**寺本 剛啓**  
〈大成建設(株) 理事九州支店長〉

## 若者や女性にとって魅力ある産業を目指して

九州支部長の寺本でございます。

本誌をご覧の皆様には当支部の事業活動につきまして、かねてから格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

最近、「生産性革命」、「女性の活躍推進」といった言葉をお聞きになられると思います。これらは、少子高齢化社会に向けて担い手を確保するための方策の一つであります。支部としましては、若者や女性にとって魅力ある産業にしていくためにはどうあるべきか、試行錯誤しながら地道に取り組みなくてはなりません。生産性向上をテーマとした講演会、勉強会の開催、ICT(情報通信技術)施工現場の見学会等を開催、また、けんせつ小町フォーラムの開催等活動を展開しています。

昨年の熊本地震の際には、建設業の社会的使命を果たすべく、支援要請に対応いたしました。今後も将来発生が懸念されている南海トラフ巨大地震等に備え、より迅速な支援が可能となるよう、昨年の経験を活かして諸々の見直しを進めて参りたいと考えております。

また、熊本の復旧・復興に少しでもお役に立つよう今後も努めて参りたいと考えております。

建設業は、国民生活に欠かせない産業基盤となる社会資本整備の一翼を担い、また、災害時に地域を守る国民に不可欠な産業であると確信しております。今後も若者や女性にとって魅力ある建設産業づくりのために邁進し、建設業の社会的責任が果たせるよう活動を展開して参りたいと考えておりますので、皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 九州の建設業 [キーストン] Keystone

vol.33  
平成29年  
2月発行

## contents

### 九州ウォッチング

## 2 未来を築く新しい「ゆたかさ」への挑戦 -宮崎県-

### けんせつ小町

## いつもイキイキ! けんせつ小町!

8 西松建設株式会社 九州支社  
永井 千彩希さん

10 鹿島建設株式会社 九州支店  
岡崎 景子さん

12 けんせつ小町施設見学会・懇談会・交流会

13 けんせつ小町フォーラム@福岡



### 熊本地震

## 14 〈熊本地震支援対応報告〉日建連、復旧支援に出動!

### 市民現場見学会

## 来て、見て、感じてみよう! 土木・建築の魅力

16 おやじの日現場見学会 大分川ダム建設工事

17 土木工事現場見学会 福富天神排水樋管改築及び築堤工事  
佐賀497号府招長田地区東・西改良工事

18 土木の日見学会 小石原川ダム本体建設工事・寺内ダム

19 鉄道工事見学会 熊本駅周辺鉄道高架化事業

20 土木工事現場見学会 阿蘇大橋地区斜面防災対策工事

### Report

21 土木の日ファミリーフェスタ2016  
無人化施工をリモコンゲームで体感!

22 •鉄道建設工事技術講習会  
•九州建設技術フォーラム2016

23 •災害防止総決起大会  
•意見交換会

24 •第1回現場実務勉強会  
•建設技術講演会

25 •インターンシップ講演会  
•安全環境委員会活動



### Outline

26 団体の概要

### Information

28 会員・役員名簿



# 未来を築く新しい「ゆたかさ」への挑戦

宮崎県



宮崎県知事  
河野 俊嗣(こうの しゅんじ)  
昭和39年9月8日生まれ 広島県呉市出身

■略歴  
最終学歴 東京大学法学部卒業  
昭和63年4月 自治省入省  
平成13年4月 総務省自治行政局政策課課長補佐  
平成15年4月 総務省自治行政局自治政策課理事官  
平成15年7月 総務省自治財政局地方債課理事官  
平成16年4月 総務省自治税務局企画課税務企画官  
平成17年4月 宮崎県総務部長  
平成19年2月 宮崎県副知事  
平成23年1月 宮崎県知事

## はじめに

我が国は、本格的な人口減少社会の到来や高齢化の進展、不透明感を増す国際情勢など多くの課題を抱える中、個性豊かな魅力ある地域社会の実現に向けた地方創生の取組が本格化しております。

本県におきましても、将来の本県のあるべき姿を見据えた県総合計画「未来みやざき創造プラン」と、人口減少に対応した社会づくりと経済的な豊かさだけではない「新しいゆたかさ」の実現に取り組む「宮崎県まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、活力にあふれた「みやざき新時代」を切り拓いていくための各種施策に全力で取り組んでいるところです。

このような中、本県では、東九州自動車道や細島港などの交通インフラ整備の着実な進展に加え、大型クルーズ船の相次ぐ寄港、「高千穂郷・椎葉山地域」の世界農業遺産認定、スギ素材生産量25年連続日本一など、様々な成果が開花しております。

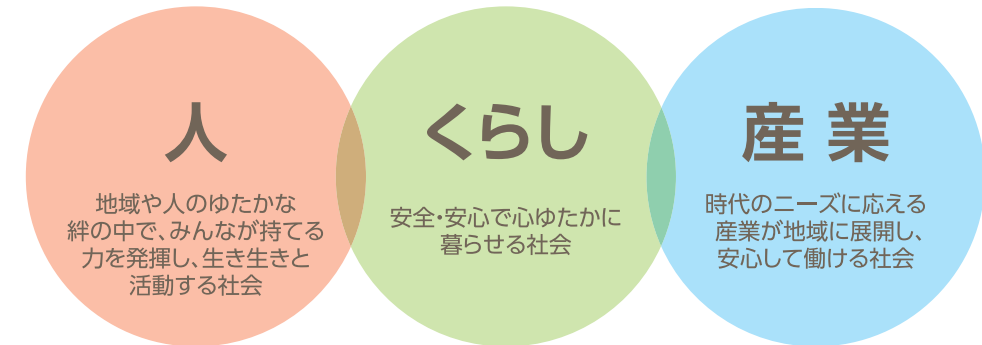
今後も、こうした成果を礎として、直面する課題へも果敢に挑戦しながら、本県のキャッチフレーズ「日本のひなた宮崎県」とともに、宮崎の魅力、活力、情熱を国内外に力強く発信してまいります。

## 宮崎県総合計画

# 未来みやざき創造プラン

### 1 目指す将来像

基本目標「未来を築く新しい『ゆたかさ』への挑戦」の実現に向けた目指す将来像を「人」「暮らし」「産業」の3つの側面から描いています。



### 2 長期戦略 ～長期的視点から取り組む戦略(2030年の将来像)～

将来を見据え、特に重視すべき4つの視点から課題の解決や発展のため、重点的・集中的に取り組む方向性と2030年に向けた数値目標を掲げています。

#### 特に重視すべき4つの長期的視点

人口問題

グローバル化

環境・資源問題

危機対応

解決に向けた長期戦略

#### 基本目標・将来像実現のため、長期的視点から重点的・優先的に取り組む戦略

戦略1 人口問題戦略

戦略5 観光再生おもてなし戦略

戦略2 人材育成戦略

戦略6 文化スポーツ振興戦略

戦略3 産業成長戦略

戦略7 いきいき共生社会戦略

戦略4 地域経済循環戦略

戦略8 危機管理強化戦略

### 3 アクションプラン ～4年間(2015年度～2018年度)の行動戦略～

長期ビジョンを推進するため、4年間の施策目標を定め、「みやざき新時代」を切り拓いていくため、重点的に施策の展開を図ります。

#### 1 躍動する「人」

「脱少子化・子育て応援県」の実現

#### 2 活力ある「産業」

成長加速化と循環促進による地域経済の活性化と雇用促進

#### 3 充実した「暮らし」

経済的な豊かさとお金に代えられない価値が調和した暮らし

## 宮崎県の主要プロジェクト

平成28年4月、東九州自動車道「椎田南～豊前」間が開通し、宮崎市から北九州市までの約320kmが1本の高速道路でつながり、東九州にとって、歴史的な節目を迎えたところです。

一方、本県は、全国有数の豪雨地帯であり、毎年のように浸水被害や土砂災害に見舞われているほか、今後南海トラフ地震による甚大な被害が想定されるなど、防災・減災対策、さらには、老朽化対策も喫緊の課題となっています。

このような中、「東九州の新時代」をけん引する宮崎を築いていくため、宮崎県では、「交通ネットワークの整備・充実」「安全・安心で魅力ある県土づくり」「おもてなしの取組の推進」など、ハード・ソフト両面から各種施策を進めています。

### 1 交通ネットワークの整備・充実

#### ＜1＞ 東九州自動車道

東九州自動車道は、九州縦貫自動車道や九州中央自動車道と一体となって、九州を循環する高速交通体系を形成し、東九州地域はもとより、九州全体の産業・経済・観光・文化などの一体的な発展や地域の交流・連携の推進、さらには、救急救命や災害対策に大きく貢献する高規格幹線道路です。

平成28年4月には、宮崎市から北九州市までつながったことにより、九州に循環型ネットワークが誕生しました。これまでの整備により、沿線地域では観光・商業圏域が拡大し、県外からの観光客の増加や企業立地の加速による雇用も増加するなどしており、今後さらなる地域経済への波及効果が期待されています。

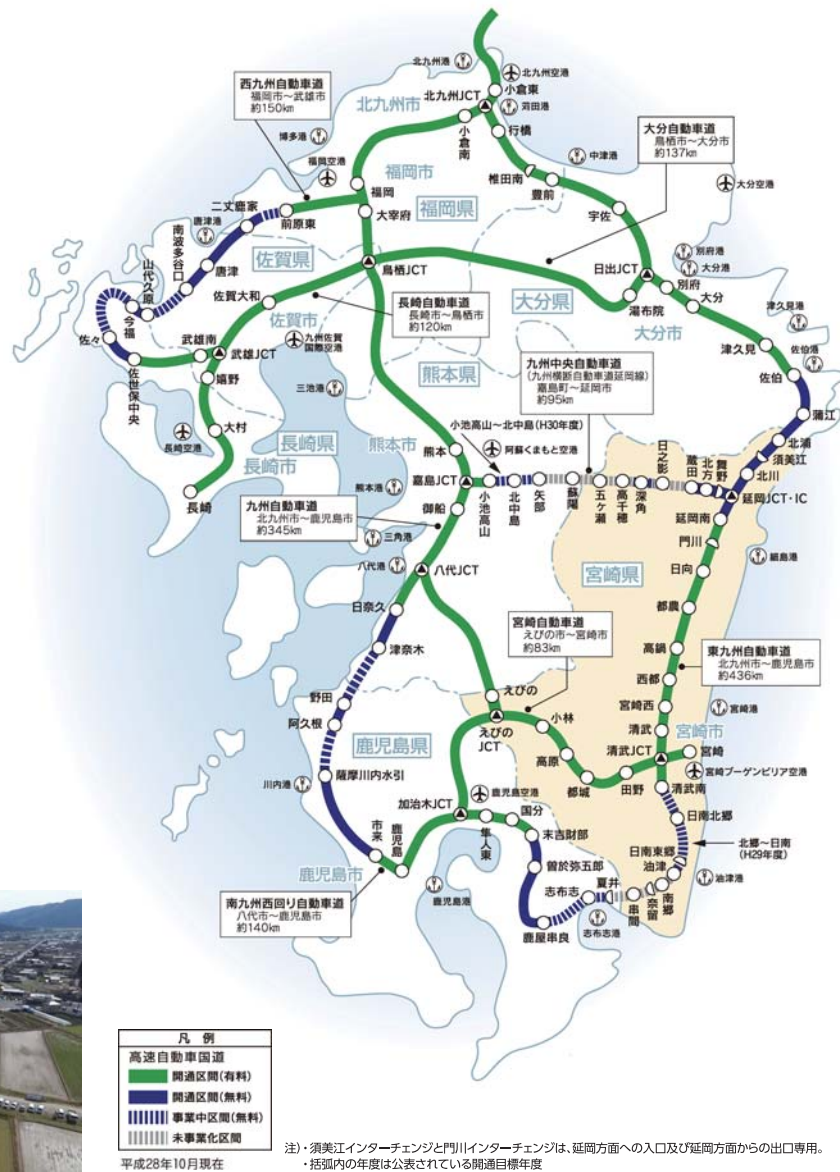
また、「平成28年熊本地震」では、九州縦貫自動車道が寸断される中、東九州自動車道が支援ルートや代替ルートとして大きく貢献したところであり、想定される南海トラフ巨大地震等の災害時や救急時に地域住民に安心をもたらす、地域にとってなくてはならない道路です。

今後は、残る県南区間の整備、開通区間の早期4車線化や休憩施設の充実等の実現が課題となっています。



建設中の東九州自動車道 日南北郷IC付近

#### 九州の高規格幹線道路網図



#### ＜2＞ 九州中央自動車道

九州中央自動車道は、熊本県・宮崎県にまたがり九州を東西に連絡するとともに、九州縦貫自動車道や東九州自動車道と一体となって高速交通ネットワークを形成する高規格幹線道路です。

「平成28年熊本地震」では、九州中央自動車道は被災地への支援ルートとして活用されましたが、未事業区間の現道において、地震による落石や岩盤の亀裂が発生し、一部区間では通行止めを余儀なくされるなど、現道のぜい弱性が露呈され、高速道路の必要性が再認識されたところです。

事業中区間の早期完成、未事業区間の早期事業化が待たれるところです。



#### ＜3＞ 活発な産業活動や交流を支える道づくり

高規格幹線道路と一体となってサービス水準の高い道路ネットワークを形成する地域高規格道路は、「都城志布志道路」や「宮崎東環状道路」などで整備を進めています。

また、県内生産拠点や重要港湾等の物流拠点、主要観光地等と高速道路のインターチェンジ等とを連絡するアクセス道路の整備を進めています。さらに、災害時における集落孤立化の防止や救助・支援活動及び緊急物資輸送等を円滑かつ安全に確保できるよう、緊急輸送道路等の整備や橋梁等の耐震対策を推進しています。



山之口スマートIC (H28.9開通)



緊急輸送道路である県道高鍋高岡線の本床橋架け替え工事

#### 4 重要港湾

本県の3つの重要港湾は、地域の産業や経済を支え、企業立地や雇用創出に寄与する物流や人流の拠点であり、さらには、近年増加しているクルーズ船寄港などの観光面からも重要な役割を担っています。

細島港における水深13mの大型岸壁を備えた国際物流ターミナルの整備や油津港における16万トン級の大型クルーズ船に対応した係留施設の整備などそれぞれの地域の特性に応じた港湾整備を進めています。



〈細島港国際物流ターミナル 貨物船寄港状況〉



〈油津港東ふ頭 クルーズ船寄港状況〉



## 2 安全・安心で魅力ある県土づくり

#### 1 治水対策

全国有数の豪雨地帯である本県では、県内全域に大きな被害をもたらした平成17年の台風14号による大水害など、過去に多くの洪水被害が発生しています。

このため、市街地などの緊急度の高い河川から整備を進めるとともに、中山間地においては、浸水被害対策の早期完成を図るため、宅地かさ上げや輪中堤による水防事業を実施しています。

また、国と連携して「水防災意識社会」の再構築に向けた取組を推進するなど、ハード・ソフト一体となった対策を進めています。



H17台風14号で 諸塚村中心部は 甚大な被害を受けた



耳川(諸塚)土地利用一体型水防事業 平成27年3月 竣工

最大5.7m高上げ

水害から10年...



浸水被害の状況(H17.9)

(H28.4撮影)

#### 2 地震・津波対策

南海トラフにおける地震(M8以上)は、今後30年以内に70%程度と高い確率で発生し、最大死者数が3万5千人と予測されるなど、本県にとって大きな脅威であり、地震・津波対策は喫緊の課題です。

河川・海岸における比較的発生頻度の高い津波(レベル1津波)の要対策延長は約100kmにのぼり、事業量は膨大になるものと見込まれています。

河川では、平成26年度より、津波・高潮・耐震対策河川事業による堤防の高上げや液状化対策等に取り組んでいます。



今後 30年以内の発生は 70%程度

最大想定死者数 3万5千人

南海トラフ巨大地震津波 沿岸全市町(10市町) 特別強化地域に指定

要対策延長  
 ■32海岸 56km  
 ■35水系 43km(H26~14水系の事業着手)  
 ■保安林 2km

河川・海岸施設の津波対策  
 対策延長 約100km  
 総事業費 1,000億円以上

## 3 おもてなしの取組の推進

#### 1 (仮称)美しい宮崎づくり推進条例

豊かな自然を生かした美しい県土づくりへのこれまでの取組を継承・発展させ、心豊かな暮らしを実現するため、現在、本県では、美しい宮崎づくりに関する基本理念を定め、県・市町村・県民・事業者の責務又は役割を明らかにするとともに、自然景観、農山漁村景観、まちなみ景観など、地域の特性を生かした美しい宮崎づくりを総合的に推進する「(仮称)美しい宮崎づくり推進条例」の制定に取り組んでいます。

みんなの力で実現したい宮崎の未来 -美しい宮崎づくりとは?-

「美しい宮崎づくり」の3つの視点

良好な景観を「守る」こと、  
 新たに良好な景観を「創り出す」こと、  
 又はこれらの景観を「活用する」ことにより、  
 「魅力ある地域づくり」を推進し、  
 「県民の心豊かな暮らし」と  
 「活力ある地域社会の実現」を目指します。



### おわりに

本県では、東九州自動車道や細島港等の整備により、企業進出や観光客の増加など、インフラのストック効果が現れておりますが、依然として、高速道路供用率や国県道改良率などは低く、まだまだ、社会資本整備が遅れている状況です。

このようなことから、国に対して、公共事業予算の確保と地方への重点配分を要望するとともに、選択と集中の下、ストック効果の高い社会資本整備を進め、生産性向上による経済成長が実現できるよう、県民の皆様と知恵を出し合いながら、みやざき新時代を築くための着実な基盤づくりに取り組んでまいります。

いつもイキイキ!

# けんせつ小町!

「けんせつ小町」は建設業で活躍する女性の愛称です。

土木編

この仕事には  
大きな構造物を  
チームで造り上げていく  
醍醐味がある。



①斜路(工事用)トンネルの坑口で、永田所長と工事についての打ち合わせ。②坑口の近くにある工具・部品置場で入坑前の装備を点検中。③測量でトンネルの状況を確認。④事務所でのデスクワークも大切な仕事。⑤事務所2階・宿泊所の個室にはユニットバスを完備。

## トンネル工事のインターンシップで 女性も活躍できる業界ということを確信。

父親が建設関係の仕事をしていることもあって、建設業には幼い頃から興味がありました。ですから大学進学の際に土木系の学科を目指したことは、ごく自然なことだったと言えます。建設業を志望した直接の動機は、次第に土木構造物に魅力を感じるようになったこと。研究を深めるため大学院にも進学しましたが、土木分野の学習を深めるにつれ、実際の現場で構造物の建設に携わってみたいと思うようになっていきました。しかし、現場には女性技術者の数はまだまだ少ないことも事実で、本当に自分がそこでやっていけるのか不安もありました。

そこでゼネコンで働く研究室の先輩に頼みこみ、トンネル工事のインターンシップへ……。2週間泊まり込みでの工事体験でしたが、実際、現場に出てみて女性でもやっていけると思ったことからより現場で働きたいという意欲も強まり、ゼネコンへの就職を目指すようになりました。

## 信頼される現場監督へ成長し、 結婚・出産後も今の仕事を続けたい。

私にとってこの久山トンネル工事が最初の現場となりました。現在は、トンネル工事に関わる測量管理、出来形管理、材料の発注及び実績管理など施工管理のほか、安全管理、品質管理などに携わっています。やりがいは、今まで存在していなかった大きな構造物を自分たちの測量によって出された高さや位置に基づいて造り上げていくこと。また、実際に私が重機に乗って作業を行うわけではないので、様々な仕事を担当する作業員さんたちに指示を出しながらチームとしてプロジェクトを進行させて

いくことにもやりがいや達成感を覚えています。

これからは、仕事を通してさらに多くの知識や経験を自分の中に蓄え、もっと自信をつけたいうえで作業員さんや後輩に頼られるような現場監督に成長したいですね。そして、結婚・出産後も今の仕事を続けることが夢です。その先は現場や社内組織の長へとステップアップし、女性の建設業進出に少しでも役に立つことができればと考えています。

## インターンシップや見学会に参加し、 建設業の魅力を感じてほしい。

私は建設業の仕事に関しては「女性だから出来ない」ということは全くないと思います。当然、女性には不向きな力仕事も現場には存在しますが、今は機械化も進んでいることもあり、力を補うべく意識を持って周囲と協調し行動すればきっと問題なく仕事を進めることができるでしょう。

特に、私の就いている現場監督の業務は力仕事以外の業務がほとんど。今、女性でも力を発揮できる仕事であることを、身を持って感じています。建設の仕事に大事なものは、気配りや目配りをはじめ慎重さや時には大胆さといった個人の意識や姿勢ではないでしょうか。建設業に関心を持っている女性には、ぜひ現場見学をはじめインターンシップなどへ積極的に参加して頂き、モノを創造する魅力を体感しながら興味をさらに深めてほしいと思っています。

### ココに注目!

工事現場には、女性専用トイレが設置してあります。また、事務所や宿舎にも女性専用トイレや専用更衣室が設置してあるほか、宿舎の部屋(個室)にユニットバスが設けられています。



西松建設株式会社 九州支社

永井 千彩希さん

ながい・ちあき◎福岡県出身。熊本大学大学院自然科学研究科修了。平成26年入社。西松建設株式会社九州支社・新幹線久山西出張所勤務。現在、「九州新幹線(西九州)、久山トンネル(西)他工事」における工事係として施工管理・安全管理・品質管理等に従事。

### 現場情報

- 工事名称 九州新幹線(西九州)、久山トンネル(西)他工事
- 工事場所 起点側(諫早側)-長崎県諫早市久山町~ 終点側(長崎側)-長崎県長崎市船石町
- 施工企業 西松・若菜・黒瀬特定建設工事 共同企業体
- 工事内容 本坑トンネル2,425m  
斜路(工事用)トンネル157m  
線路土工一式  
セメント改良補強土壁一式  
路盤工4,850m



いつもイキイキ!

建築編

# けんせつ小町!

「けんせつ小町」は建設業で活躍する女性の愛称です。

建物が完成に近づく  
手ごたえを感じながら、  
丹念に、着実に、  
仕事を進めていきたい。



①大須賀所長と事務所内で図面をもとに打ち合わせ。②事務所では計画書等の各種書類作成にも当たる。③建物の外側2階へと続くアプローチを登って作業場へ。④協力会社の職長とコンクリート打設について協議中。⑤椅子も設置してある事務所の女性専用トイレ。

## 頻発する地震のニュースをきっかけに 専攻を電子分野から建築分野へ。

私が建設業界、特に建築分野を仕事に選んだのは、世界各地(特に途上国)で頻発していた地震のニュースを見て、建物が地震で壊れることがない社会づくりに貢献したいと思ったことがきっかけでした。特に、衝撃を受けたのがイランで発生した地震でした。当時、私は北九州の高等専門学校生で、電子分野を学んでいました。この分野でこのまま進んでいくべきなのか、なにかもっと社会に貢献できる分野はないのか、そんな悩みを持っていたところに起きたのがイランでの地震だったのです。倒壊した建物を見てなんとかしたいと思った私は、建築分野を学ぶことを決意。希望としては途上国のもろく壊れやすい建物を、地震でも壊れにくい建物にしていく国際協力を思い描きながら、高専から大学の建築学科へと編入して建築学を学んできました。学部を卒業後は大学院へ進学し、地震分野の研究を継続。当初の方向性とは異なりますが、大学院修了後はゼネコンへの就職を果たし、こうして建築の仕事に携わっています。

## 目標は施主・施工者双方が満足する建物づくり。 業界全体のボトムアップにも期待したい。

私の担当は、主に現場管理です。最初は鉄筋工事の管理でしたが、今は外装廻りの仕事を担当しています。またこれに伴う施工計画書や品質管理計画書、また報告書など各種書類の作成も大事な仕事です。今は、事故なく丹念に、着実に仕事を進めていくことに専心している毎日です。目の前で日々建物の状況が変わり、完成に向かって形になっていくこと、また、現場で働くたくさんの人と共に建物を造り上げていくことがこの仕事

のやりがいと言えるでしょうか。この先は、細部まで「建築」を「理解」し、施主・施工者(元請け・下請け)双方が満足いく建物を造り上げることが出来るようになっていきたいと思っています。

私の希望として、建設業界にはこの5年~10年で業界全体のボトムアップを図ってほしいと考えています。元請けも下請けもワークライフバランスを整え、週休2日、祝日は休日ということが普通になるような業界へ…。日建連の取組みによって、現場全休日の確保が可能な適正工期・適正工事費の設定、下請け業者の労働環境改善など多様なことをセットにし、建設業界の未来のためにも業界全体の改善が進展することを期待しています。

## 男性とか女性とかは問題ではない。 本当にやりたいことは何なのかが大事。

建設業界は、環境改善を目指しているところ。ですから多くの人がゆとりを持って働けるようになるまで、男性も女性もそれなりの苦労があるかもしれません。しかし仕事自体については、本当にやりたいことであるならば男性であるとか女性であるとかという問題は問題ではないはず。建設業界を目指す女性の方には、それが本当にやりたいことなのか、自分の目指すところはどこなのか、しっかりと見極めて自分に適した分野で建設業に携わってほしいと思います。女性が建設業界に次第に増えていくことで、女性が当たり前になる職場へと変わっていくように、また社会からもそう認められるように共に頑張りましょう。

### ココに注目!

事務所には私がデザインした女性専用トイレが設置されています。シックなカラーリングで統一し、デパートのようなトイレを目指しました。また住居は、マンションの個室が割り当てられています。

鹿島建設株式会社 九州支店

岡崎 景子さん

おかざき・けいこ◎福岡県出身。広島大学大学院工学研究科建築学専攻修了。平成23年(2011年)入社。鹿島・上滝・堀内JV・長崎県庁舎行政棟新築工事事務所勤務。現在、「長崎県庁舎行政棟新築工事」における鉄筋工事・外装工事など現場管理を担当。

### 現場情報

- 工事名称 26庁舎第1-2号長崎県庁舎行政棟新築工事
- 工事場所 長崎県長崎市尾上町13-1、20-1他
- 施工企業 鹿島・上滝・堀内特定建設工事共同企業体
- 敷地面積 16,014.47㎡
- 延べ面積 46,564.73㎡
- 建築面積 10,558.39㎡
- 最高高さ GL+39.96m
- 建物概要 地上8階
- 構造 RC造(免震構造)



## 女性が活躍できる 魅力的な建設業界を目指して。



**第2回**  
**けんせつ小町  
施設見学会  
懇談会・交流会**  
■日時/平成28年12月14日  
■見学場所/九州地方整備局武雄河川事務所  
九州新幹線(西九州)、武雄温泉駅高架橋他  
(施工企業:前田・松尾・大和特定建設工事共同企業体)

### 現場を学ぶ、未来を語る、 仲間とつながる。

日建連九州支部では、第2回目となる「けんせつ小町施設見学会・懇談会・交流会」を開催しました。これは平成28年6月に立ち上げられた「けんせつ小町部会」によって計画・開催されたものです。会員企業の「女性技術職員(けんせつ小町)」を対象に、施設見学を通じて知識の習得を行うとともに、交流の促進を図り、女性の活躍促進・育成を更に推進することが目的で、当日は、けんせつ小町約30人が3ヶ所での催しに参加しました。

施設見学の場所は佐賀県武雄市。まずは九州地方整備局武雄河川事務所の情報機器が並ぶ防災室で、事業概要や防災対策などの説明を受け、地域を守る取組みを学習。次いで「九州新幹線(西九州)、武雄温泉駅高架橋他」の工事現場へと移動し、発注者から計画や事業概要の説明を、また前田建設工業の女性技術者・蔵力嬌さん<sup>ぞうりきさよう</sup>から工事方法や進捗状況などの説明を受け、その後に実際の工事現場を見学しました。

終了後は再び福岡市へ。懇談会では「けんせつ小町部会」の活動報告から始まって参加者全員が自己紹介を行い、仕事の悩み、質問したいことなどを話し合いました。「やっぱり現場に出たい」という声もあれば「遠距離恋愛」など恋愛に対する悩みの声も…。その後は引き続き交流会が行われ、名刺交換や連絡先を互いに教え合うなどして、楽しい時間を過ごしました。

- ① 数多くの情報機器が並ぶ武雄河川事務所。
- ② 鉄道工事現場における橋脚工事をじっくり見学。
- ③ 部会の活動報告や各自の自己紹介を行った懇談会。
- ④ 会食しながらの楽しい交流会。

工事の説明をしてくださった前田建設工業の蔵さん



## 働く女性の悩みを解消! いつも笑顔で働き続けるために。



**第1回**  
**けんせつ小町  
フォーラム@福岡**  
■日時/平成29年2月2日  
■場所/福岡国際会議場  
■プログラム/基調講演・パネルディスカッション・  
交流会

### 働きやすい職場づくりへの アプローチ。

日建連九州支部では今回初となる、「けんせつ小町フォーラム@福岡」を本部支援のもとで開催しました。見学会に次ぐ大きなイベントで、各会員企業のけんせつ小町に男性社員を加えた199名が参加しました。寺本支部長の挨拶に続いてまず基調講演が行われましたが、講師は、企業における女性活躍支援に関わる会社の代表である竹之内幸子さんが担当。これまでも他の都市での「けんせつ小町フォーラム」で講演され、好評だったことから今回も講演を依頼したものです。「女性が働きやすい職場とは〜イキイキとした職場を作ろう!」を演題に、「今、なぜ女性活躍か」では女性活躍推進のメリットや方向性などを、また「違いを活かすあうために」では男性・女性の仕事の価値観の違いや脳解剖学的な違いなどを、楽しく分かりやすくお話しされました。

また休憩を挟み、竹之内さんのコーディネートのもと5人のけんせつ小町によるパネルディスカッションも行われました。職場に建設業界を選んだ理由、男性社会といわれるこの業界で働いて嬉しかったことや大変だったこと、あるいは今後こうすれば職場が良くなると思うこと…といったテーマで、それぞれが自身の体験を交えて意見を述べあいました。終了後は、会場1階のレストランで交流会を実施しましたが、おいしい料理を口にしながらの交流に会場も大いに盛り上がりました。

- ① 楽しくなる竹之内さんの基調講演。
- ② 壇上で意見を交わすけんせつ小町5人。
- ③ 大勢の人が詰めかけたフォーラム会場。
- ④ 名刺交換や相談なども行われた交流会。

「けんせつ小町」をアピールするピンバッジ!





# 目建連、復旧支援に出動!

九州支部では、熊本地震前震発生直後に支部災害対策本部を立ち上げ、九州地方整備局様、NEXCO西日本様との支援協定に基づき応急復旧工事、資機材調達等の支援を実施しました。地域経済や暮らしを支える大動脈である九州自動車道、大分自動車道の大型連休前通行止め解除の要請に応えるべく昼夜工事で対応いたしました。また、大規模斜面崩壊が発生した阿蘇大橋地区では、斜面上部に残る不安定土砂を受け止める土留め盛土を二重に設置する工事を約1キロ離れた操作室から重機を遠隔操作し、無人化による施工を行いました。冬季の阿蘇地域への進入路を確保するため、県道熊本高森線俵山トンネルの復旧工事を施工しました。その他被災した宇土市役所庁舎の現地調査等要請があった諸調査を実施しました。

## 九州支部での支援実施状況

### 地震発生(前震)

平成28年4月14日21時26分(マグニチュード6.5/震度7)

### 支部災害対策本部設置

平成28年4月14日22時50分

### 本震発生

平成28年4月16日 1時25分(マグニチュード7.3/震度7)

#### ■資機材調達

ブルーシート…6,430枚、土嚢…110,100袋、PPロープ…170巻

#### ■応急復旧工事

九州地方整備局関係…2件、NEXCO西日本関係…10件

#### ■その他調査等

災害復旧対応可能重機等所有調査、ブルーシート在庫調査、土嚢調達可能数量調査、阿蘇大橋付近現地調査・意見交換、宇土市庁舎の現地調査、地下埋設物探査技術情報収集



阿蘇大橋付近現地調査  
(28.4.25)



調達後運搬ターミナルへ持ち込み  
(28.5.3)

## 熊本地震における被災状況

地震で倒壊した家屋



崩落した阿蘇大橋



調査を行う国交省スタッフ



すべて九州地方整備局提供

## 熊本地震における被災状況・復旧作業の様子

### 阿蘇大橋付近被災状況



九州地方整備局提供

### 無人化による不安定土砂除去作業



(28.8.31)

### 九州自動車道 緑川PA付近 府領第一橋の被災状況



NEXCO西日本提供

### 府領第一橋撤去



(28.4.19)

### 俵山トンネル被災状況(西原村側抗口から約100m)



九州地方整備局提供

### 俵山トンネル復旧工事



(28.7.16)

## その他の災害対応工事

### 熊本ICトールゲート上屋撤去



(28.4.25)

### 大分道 のり面土砂崩落現場の作業状況



NEXCO西日本提供

おやじの日現場見学会

**大分川ダム建設工事**

■日時/平成28年8月6日 ■場所/大分県大分市 ■施工企業/鹿島・竹中土木・三井住友特定建設工事共同企業体



日建連九州支部では、お父さんの仕事場を見学してもらう「おやじの日・工事現場見学会」を大分川ダムの工事現場で実施しました。この見学会は九州地方整備局および九州建設業協会の共催企画で、今回4回目の実施。見学会には発注者や施工会社などから9家族32人が参加しました。

まず参加者は、「ななせ館」という施設に集合して昼食。その後、発注者からの計画概要、施工者からの工事概要などの説明を受けました。次いで、第二展望台へバスで移動し、ダム工事全体を見渡しました。展望台では、実際のダムの大きさがイメージできるパネル越しに工事を眺めたり、重ダンプのどっかいタイヤを表示してあるプリントに驚いたり…。また、ダム工事の規模の大きさにも感心しているようでした。歓声があがったのがドローンの飛行パフォーマンス。フワリと浮き上がったドローンには子どもたちも大喜びでした。

その後は、堤体付近の工事を見学して再び場所を移動。いよいよ工事車両の見学と体験乗車です。ここではリモコンで動くローラーを見学したほか、重ダンプの運転席に乗りこむ楽しい時間となりました。工事関係者の説明にメモを取る女の子も見受けられましたが、きっと夏休みの自由学習や思い出づくりに最適な一日となったことでしょう。



大きな重ダンプに乗って記念撮影



舞い上がったドローンで参加者を撮影



**工事MEMO** 大分川ダムは、大分川水系七瀬川の上流約21km、大分県大分市大字下原地先に建設されている多目的ダムです。堤高約92m、堤頂長約500m、総貯水容量24,000,000m<sup>3</sup>で、形式は岩石や土を積み上げてつくるロックフィルダム。大分川の総合開発の一環として工事が進んでおり、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の取水などを目的としています。

土木工事現場見学会  
 佐賀農業高等学校

**福富天神排水樋管改築及び築堤工事  
 佐賀497号府招長田地区東・西改良工事**

**福富天神排水樋管改築及び築堤工事**

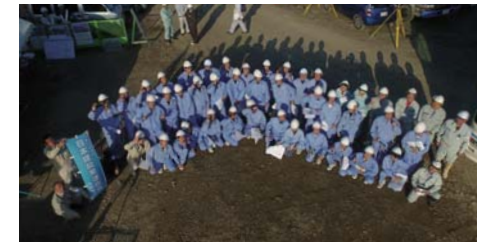
■日 時/平成28年11月1日  
 ■場 所/佐賀県白石町  
 ■施工企業/福田組  
 ■設計企業/建設技術研究所



六角川河口堰の概要説明に耳を傾ける高校生

**佐賀497号府招長田地区東・西改良工事**

■日 時/平成28年11月1日  
 ■場 所/佐賀県伊万里市  
 ■施工企業/東改良工事…岡本建設  
 西改良工事…下村建設



バックホウによるICT施工をじっくり見学

社会資本整備の見学を目的に、佐賀農業高等学校環境工学科2年生の41名が2ヶ所の工事現場を訪問しました。午前中は「福富天神排水樋管改築及び築堤工事」の見学です。生徒たちは学校で発注者・設計者・施工者から計画・工事概要、仕事の役割を聞いた後、現場へ移動。まずは高校の先輩が働く河川堰管理支所で六角川河口堰の目的などの説明を受け、その後排水樋管改築及び築堤工事現場で並ぶ鋼矢板や実際に動く地盤改良マシンなどを見学しました。午後からは「佐賀497号府招長田地区東・西改良工事」の現場へ。工事概要の説明を聞いた後、生徒たちはドローンや3Dスキャナーを用いた測量、マシンコントロールなどを用いたバックホウでの施工など、ICTを活用した最先端の工事を見学しました。

参加者の声

私は2年間土木に関して学んできました。しかし、建設現場へ足を踏み入れたのは今回が初めてでした。現場はとてつもなく、大きな重機がすごい音を立てて動いている状況にとても圧倒されました。そして、多くの方が掘削や測量作業に従事されており、そのキビキビとした姿を拝見し「土木技術者ってかっこいい!」と思いました。また、これまで学習した事が当たり前のように活用されていることにも驚きました。現場の方が話される内容も大分理解できたことを私自身とても嬉しく感じました。私には将来、多くの人の生活を豊かにする構造物を造りたいという夢がありますが、建設業で女性が働く場所があるか心配でした。しかし、今回の見学会では発注者、コンサルタント、受注者においても多くの女性が活躍されていました。説明の際にも紹介されましたが、今、土木業界では女性技術者が求められている現状を知り、将来の進路選択に自信を持つことができました。このような機会をいただき、建設現場を目の当たりにして、私の夢に対する気持ちはさらに強くなりました。将来、一人前の「けんせつ小町」として人の役に立つ構造物建設に貢献したいと思います。今回、この研修を主催していただいた日本建設業連合会の皆様、本当にありがとうございました。 環境工学科2年/千穂 萌恵

今回の研修会に参加して、日頃学校で学習している事が建設現場で活かされていることや、最新の測量技術を使って工事が行われていることなど、多くのことを学ぶことができました。その中でも、私は佐賀県特有の有明粘土における柔構造という工法について興味を持ちました。福富天神排水樋管の現場でしたが、従来の方法で軟弱地盤中に樋管を埋設すると、管と地盤の間に空洞が形成されて周囲の土が削られ、最後には堤防が崩壊するという現象が起こるそうです。しかし、柔構造という工法では土が柔らかいことを逆にとり、管と地盤を同時に沈下させることで災害を防止しているということでした。また、測量技術の進歩にも驚きました。現在ではドローンによって三次元測量を行い、3Dデータでの設計や図面作成をすることが主流であり、短時間で精度の高い測量ができるなど、もっと専門分野の学習に励み、高度な知識を身に付けられるよう頑張りたいと思います。今回の研修で、このような素晴らしい技術と人々によって私たちの生活が守られ、平和な日常があることについて深く考えさせられました。本当に建設業の重要性とやりがいについて知ることができてよかったと思っています。そして、将来、立派な技術者として活躍できるよう頑張ります。 環境工学科2年/小柳 潤也



**工事MEMO** 福富天神排水樋管改築及び築堤工事は、洪水や高潮による浸水から街を守るための老朽化した「樋管」の改築及び高潮堤防整備を行って治水安全度の向上を図る工事。佐賀497号府招長田地区東・西改良工事は、国道497号のうちの唐津・伊万里区間である「唐津・伊万里道路(全長18.1km)」の終点区間における道路工事です。

土木の日見学会 公募による見学会

# 小石原川ダム本体建設工事・寺内ダム

■日時／平成28年11月18日 ■場所／福岡県朝倉市 ■施工企業／小石原川ダム…鹿島・竹中土木・三井住友特定建設工事共同企業体



毎年恒例の土木学会西部支部と日建連九州支部の共催による「土木の日見学会」。今回は、公募による34名の参加者が「小石原川ダム本体建設工事」の現場と「寺内ダム」の2カ所を見学しました。

最初の見学は小石原川の上流、江川ダムの上部で行われている「小石原川ダム本体建設工事」です。初めに、事務所で発注者や施工者による工事の概要や進捗状況等の説明を聞いた後、江川ダム脇の道路、さらに導水路となる予定のトンネルを通して工事現場へバスで移動。堤体建設は始まっていませんが、参加者はダムサイトの展望所から広大な工事現場を見渡し、関係者の説明に耳を傾けながら大きなダムができて上がるイメージを膨らませていました。

次いで、レストランでの昼食と休憩を挟み、「寺内ダム」へ。まずダムサイトでダムの概要説明を受けた後に堤体の下側へ移動し、堤体内の通路を歩いてダム内部を見学することになりました。その薄暗い空間は独特の雰囲気、まるで探検のような気分です。参加者もダム内部に興味津々の面持ちでじっくり見学していました。ダム見学の後には、ビール工場見学とビールの試飲会を経て見学会は終了しましたが、普段立ち入れない現場や施設を目にして、参加者は皆さん満足顔。記念に残る見学会となったようでした。



ダム下部に設けられた通路を通り堤体内部へ



堤体内の通路を探検隊のように前進



小石原川ダムは、江川ダム上流に建設中のロックフィルダム。洪水被害の軽減、県南地域への水道用水供給、適正な水利用や環境保全、渇水時の緊急水補給などを目的としています。寺内ダムは佐田川上流に設けられた堤高83m、総貯水容量18,000,000m<sup>3</sup>のロックフィルダム。洪水調整、既得取水安定化・河川環境保全、水道用水やかんがい用水の供給を目的としています。

鉄道工事見学会 熊本高等専門学校八代キャンパス

# 熊本駅周辺鉄道高架化事業

■日時／平成28年11月22日 ■場所／熊本県熊本市 ■施工企業／鹿島、九鉄、三軌などのJV



熊本駅周辺では鉄道高架化事業（JR鹿児島本線等連続立体交差事業）が行われており、この工事の見学に熊本高等専門学校八代キャンパス・建築社会デザイン工学科の学生たち38名がJR熊本駅を訪れました。

見学に先立ち、JR九州の工事担当者がJR九州の会社概要、そして高架化工事の目的や事業の流れなどを説明。学生たちはその後、高架化が完了しているJR熊本駅の在来線（上り）ホームに移動し、高所から在来線（下り）の高架化工事の様子などを見学しました。ホームでは、建築に当たった著名なデザイナーや熊本県産の建築木材などについても説明を受けましたが、学生たちもホームに使われている木材などを触ったり、見回したりして、建築に関する知識を吸収していました。

その後は1階へ降り、駅南側の工事現場へ移動して周囲の状況をウォッチング。地面に掘られた大きな穴や高架橋の梁などを興味深げに見学していました。終了後の質疑応答では、「橋脚用の穴はどうやって埋めるのか?」「高架化に伴うJRのメリットは?」などの質問なども。見学会終了後もJRで働く先輩に待遇等を質問する学生も見受けられ、学生たちには、鉄道分野の多様な知識を学ぶ有意義な時間となったようでした。



高専出身の先輩の説明に聞き入る学生たち



高架化が完了したの在来線ホームで記念撮影



熊本駅周辺の道路と鉄道の立体交差化を図る「鉄道高架化事業」は、踏切事故の根絶や自動車による排ガス・振動・騒音の軽減、周辺地域の交通の円滑化、分断されていた東西地域の一体的発展、駅周辺地域の都市機能強化などを目的に行われている事業です。現在は在来線下り線路や駅ホームの高架化が進行しており、数年後は熊本駅の駅舎改築も計画されています。

土木工事現場見学会 熊本大学

# 阿蘇大橋地区斜面防災対策工事

■日時／平成28年12月3日 ■場所／熊本県阿蘇郡南阿蘇村 ■施工企業／熊谷組



無人化施工の操作室を見学

多くの人に衝撃を与えた、熊本地震による阿蘇大橋地区の大規模斜面崩壊。現在ここでは防災対策工事（無人化施工）が行われており、一帯の被災状況や工事の様子を見学するため、熊本大学の学生たち約100名が現地を訪問しました。当日は4グループに分かれ、パネルによる工事概要などの説明を受けた後に斜面崩壊箇所がよく見える場所へ移動し、防災対策工事や対岸の被災場所などをじっくりと見学しました。また、無人化施工の遠隔操作室も見学。操作室内へ入った学生たちは、ズラリと並ぶ土木工事の最新機器に目を奪われているようでした。質疑応答の時間では、「災害による地域社会の影響は?」「復旧工事の予算は?」「重機が転倒したらどうするのか?」などの多くの質問が投げかけられ、学生たちの高い学習意欲が伺えました。

### 参加者の声

今回フィールド演習に参加して初めて私は震災後の阿蘇市を訪れました。最初に行った阿蘇大橋の崩壊現場を見て、復旧作業が私が想像していたよりも進んでいない印象を受けました。その理由の1つとしては、熊本地震が4月に発生し復旧作業が梅雨の時期にかかってしまったからだということがわかりました。一言で復旧・復興といっても、それを実行するには難しいものがあったことを知り、勉強になりました。また、復旧作業において無人機械を少し離れた場所から操作して作業が進められていることを初めて知りました。機械を操作して岩などを動かしているのを教えていただきました。復旧作業にも危険が伴うものであり、その作業だけが人が出たり、人命が奪われたりしないように考えられた復旧作業がされていることにとても感動しました。また、梅雨の時期があったこともあってお盆休みすら返上して作業を進めていたというお話を聞いて、自分が休んだり楽しく過ごしたりしているときにさえも一生懸命作業されていたことにとてもありがたいと思いました。現場に行きたくて感じたのは、今の時期はとても寒いということです。このような寒い時期にも毎日復旧のために作業してくださっている人がいることに感謝したいと思います。また、阿蘇大橋の崩壊現場に行くまでの道で、未だに道路が陥没している箇所がありました。そのように通れない場所があると、地元の人々にとってはとても不便だと思います。作業はとても大変だと思いますが、少しでも早く震災以前の生活が送れるようになればいいなと思います。 文学部歴史学科1年 / 吉田 美空

自分は今回のフィールド演習で、被災者の現状を初めて間近に見ることができた。それによって、報道などでの映像だけではわからない様々な情報を得ることができた。移動中に見た景色もその一つである。阿蘇地方へ近づくと、バスの窓から見えるものは崩壊した道路や建造物ばかりになり、地震の被害が及んだ生々しい痕跡を目の当たりにした。テレビや新聞で同じ場所を何度も見てきたにもかかわらず、その印象は衝撃的であった。また、その地域に住む人々の感情や、工事を行っている方々における心境の厳しさは、現場に行くことでより深く伝わった。阿蘇大橋地区の復旧工事に関する説明では、崩壊斜面内の復旧工事は無人化機械によって行われていることが自分にとって非常に驚きであった。特に、斜面でも機体を平行にして作業を行っている写真を見たときは、現代における科学技術の素晴らしさを実感した。工事において無人化機械を用いるのは、余震などにより新たな土砂崩落が起こる危険性があり、遠方の安全な場所から工事を行う必要があるためであることがわかった。安全のために、費用がかかりつつも無人化機械を入手していることから、工事現場の方々の人命を最優先する熱意と、日頃から科学技術を発展させることの重要性が伝わった。また、工事現場の方々は、土曜日や日曜日でも作業を休むことなく作業を続けており、住民の生活を戻すために復旧を急いでいた。このことを知って、自分も含め私たちはそのような人々に感謝するとともに、地域の人々のために働くその姿勢を見習わなければならないと思った。同時に、半年以上の間休むことなく作業を続けても、依然として人が立ち入ることができない状況にあることもわかり、被害がいかに甚大であったかを改めて理解することもできた。 工学部社会環境工学科1年 / 秋吉 裕矢



阿蘇大橋地区斜面防災対策工事は、平成28年4月に発生した熊本地震によって起こった、阿蘇大橋地区の大規模な斜面崩壊箇所を復旧する工事です。主要工事は土留盛土工や崩壊斜面頭部の不安定ブロック排土工、工事用道路設置などで、ガリー対策工も実施。特徴として、不安定土砂等の崩落による二次災害を防ぐため安全な地区から重機等を無線操作する「無人化施工」が行われています。



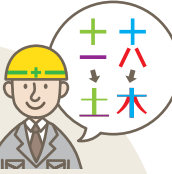
## 土木の日 ファミリーフェスタ 2016

■主催／福岡地区土木の日行事実行委員会・(公社)土木学会西部支部  
■日時／平成28年10月16日  
■場所／海の中道海浜公園(大芝生広場)



なぜ11月18日は土木の日なの?

なぜ11月18日が土木の日になったかという、2つの理由があります。1つは、土木という漢字をそれぞれ分解すると「土は十と一」「木は十と八」になるからです。もう1つの理由は、社団法人「土木学会」の前身にあたる「工学会」の創立日が、明治12年11月18日であることから、昭和62年にこの日を「土木の日」と決めました。



「土木の日ファミリーフェスタ」は、多くの人たちに土木事業を身近に感じてもらい、理解して頂くために11月18日の「土木の日」にちなんで開催される楽しいイベントです。イベントエリアには、毎年大人気の建設機械展示&乗車体験コーナーをはじめエコロジー工作(森の家工作)コーナー、ペーパークラフトコーナー、大学生たちによる実験デモンストレーションコーナー、段ボールキッズプレイランドコーナー、よく分かる「測量」コーナー、都市高速PRコーナー、電子入札デモゲームなど、いろんなコーナーが並びました。

前日から開催日の午前中まで降った雨の影響で参加人数は前年より少なくなりましたが、訪れたファミリーはみんな笑顔でいっぱい。土木とふれあう思い出深い一日を過ごしたようでした。



### 無人化施工をリモコンゲームで体感!

平成28年度は熊谷組の方々に協力頂き、日建連九州支部独自のブースで土木工事の最先端技術をPRしました。設けたのは、おもちゃのバックホウを無線でコントロールしてキャンディをすくい取るゲームコーナー。熊本地震で崩壊した阿蘇大橋周辺の防災工事を行う「無人化施工」のミニチュア版です。当日は、2つのリモートコントローラーとディスプレイ、2台のミニチュアバックホウがスタンバイ。参加者はリモコンでバックホウを操り、かごの中のキャンディを上手にすくい取らなければなりません。慣れない操作に四苦八苦のようでしたが、子どもたちはもちろん、お父さんやお母さんも歓声を上げながらゲームに熱中していました。



## 鉄道建設工事技術講習会

■主催／日建連九州支部・鉄道建設本部  
■日時／平成28年9月29日 ■場所／福岡県中小企業振興センター

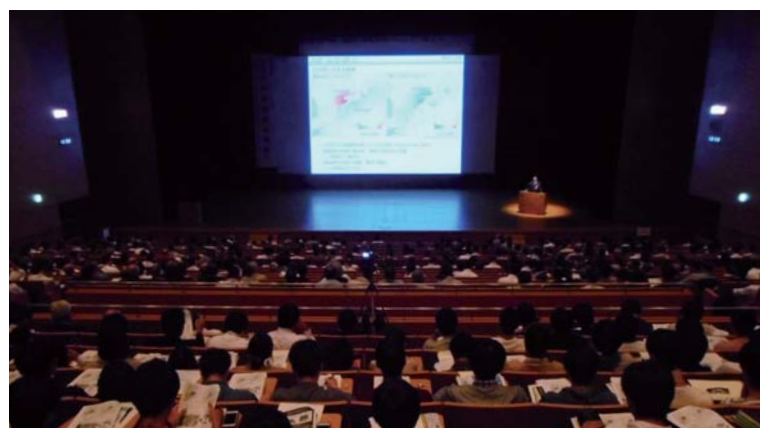


鉄道は、大量・高速・定時性を有する安全安心な輸送手段であり、地球環境保全やエネルギー問題への対処、少子高齢化への対応等の観点から、21世紀においても促進整備への期待は大きいものがあります。しかしながら熟練技術者の大量退職時代の到来、鉄道工事量減少などもあって必ずしも鉄道工事経験者を鉄道工事現場に配置できる環境になく、また鉄道工事を取り巻く環境も工期・工費・品質確保、施工環境ともに厳しさを増すなか、施工者側のみならず監督側も現場管理業務が多様化・多忙化し、現場業務を通しての鉄道建設固有技術の継承も状況が希薄化傾向にあります。

そこで日建連鉄道建設本部では、将来にわたって健全な鉄道構造物を提供するために鉄道特有の建設技術に精通した技術者育成が不可欠という認識のもと、継続して行われてきた「鉄道建設技術講習会」を今年度も開催しました。なお平成28年度は、日建連の名越常務執行役の挨拶に続き、更新受講者と一般受講者への講習が同時に行われました。

## 九州建設技術フォーラム2016

■主催／九州建設技術フォーラム実行委員会  
■日時／平成28年10月17・18日 ■場所／福岡国際会議場

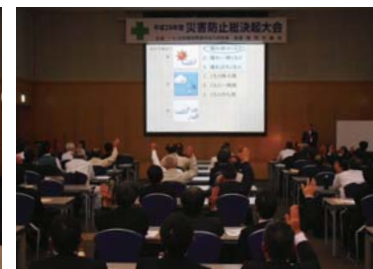


「九州建設技術フォーラム」は、新しい建設技術の開発・活用・普及促進をより効果的に図るために、「産」「学」「官」が、それぞれの新技術の開発・活用の取り組みについて情報を発信・交換するイベントです。技術情報のプレゼンテーションや展示、新技術相談などの形をとりながら連携を深め、九州における建設技術の更なる発展を目指して毎年開催されています。

平成28年度は「防災・減災、復興 -九州を支える建設技術」というキャッチフレーズのもと、基調講演や特別講演のほか、ブース展示、プレゼンテーション、新技術相談、ポスターセッションなどが2日間にわたって実施されました。会場へは、日建連会員企業をはじめとする建設企業に加え、行政、学校、そして研究機関などから多様な分野の人々が訪問。最新の建設技術の情報を収集するために各講演や発表に真剣に耳を傾けていました。昨年同様、社会人に交じって大学や専門学校の学生たちも多く見受けられた平成28年度の建設フォーラムは、活況のうちに幕を閉じました。

## 災害防止総決起大会

■主催／日建連九州支部安全環境委員会 ■後援／福岡労働局  
■日時／平成28年11月17日 ■場所／福岡国際会議場



建設業における労働災害は長期的には減少傾向にありますが、死亡者数は依然として全産業の中で占める割合が高く、憂慮すべき状況は変わりません。そこで日建連九州支部では年末年始の災害防止活動として11月に「災害防止総決起大会」を福岡労働局後援のもと開催し、労働災害の撲滅を期しています。

平成28年度は、林雅仁安全環境委員会委員長の挨拶、福岡労働局労働基準部安全課の田畑裕司課長の来賓挨拶に次いで、福岡労働局労働基準部安全課の安永和雅地方産業安全専門官が「建設業における労働災害の防止について」、九州地方整備局企画部の檜垣裕工事品質調整官が「工事現場での事故事例と安全管理について」を講演されました。その後は気象予報士・防災士の南利幸さんが、「なるほどお天気学」地球温暖化と異常気象～現場の安全を守るための天気予報の見方、聞き方、活かし方～という内容でお話しされました。なお最後は、宮本雅史安全環境委員会第1小委員長が決意表明を読み上げて大会は終了しました。

## 意見交換会

■主催／日建連九州支部  
■日時／平成28年11月30日 ■場所／第三博多借成ビル



毎年、日建連九州支部では国土交通省九州地方整備局と「公共工事の諸課題に関する意見交換会」を開催しています。平成28年度は18名が出席して意見交換が行われました。冒頭では寺本剛啓支部長が、「整備局と強いパートナーシップを築き、若者や女性にとっても魅力ある建設業となるように取り組んでいきたい」と力強く挨拶されました。

これを受けて、九州地方整備局の小平卓企画部長は「熊本地震の復旧工事に引き続き協力をお願いしたい。また、しっかり休みもとれて適正な給料がいただけるような、誇れる業界をつくっていくことが求められているので改善点などの意見を頂きたい」と述べられました。次いで九州支部が提案テーマ「現場における諸課題の改善に関する提案テーマ」「入札契約制度等に関する提案テーマ」を説明。その後、九州地方整備局が「提案テーマへの回答」を行い、さらに「自由討議」や「インフラメンテナンス国民会議」の情報提供なども行われ、約2時間にわたり活発な意見が交換されました。

## 第1回現場実務勉強会

- 主催/日建連九州支部 ■施工企業/阿蘇大橋地区斜面防災対策工事…熊谷組
- 日時/平成28年12月6日
- 場所/熊本県阿蘇郡各所 立野ダム仮排水路建設工事…青木あすなる建設



平成29年1月に開かれた第2回現場実務勉強会

日建連九州支部では、若手技術者が国の施策や最新建設技術等の理解を深めて資質向上を図ることで良質な社会資本を提供し、ひいては豊かな国民生活や産業基盤の充実に寄与することを目的に「第1回現場実務勉強会」を開催。平成28年度は、若手技術者と共にベテラン技術者を加えた30人が参加しました。

最初の現場は、熊谷組が行っている「阿蘇大橋地区斜面防災対策工事」。国交省の担当者から被災状況や工事概要の説明を受けた後、崩壊した斜面の下側へ移動して崩れた斜面や工事の状況、また川の対岸の被災地などを見学。その後は遠隔操作室へと移動し、無人化施工の最新操作機器も見学しました。昼食後は「立野ダム仮排水路建設工事」の現場へ。まず地震後の川の様子などを崖の上から見渡した後、仮排水路建設工事の様子を見学しました。併せて、崩落やひび割れで交通が寸断されている「村道 桁の木～立野線」の様子を見学して勉強会は終了。その後は熊本城へ移動して、被災した建物も視察しました。

## 建設技術講演会

- 主催/日建連九州支部 ■後援/九州地方整備局
- 日時/平成28年12月12日 ■場所/福岡国際会議場



建設技術講演会は、建設業に関する技術の進歩と経営の改善を推進し国民生活と産業活動基盤の充実に寄与することを目的に、建設産業に関する専門的知識の習得および研鑽を図るために開催されています。平成28年度は4テーマのもとに6講演が行われました。

第1回目は、「九州地方整備局の熊本地震対応について」という演題で九州地方整備局の永利信太郎緊急災害対策調整官が、第2回目は「熊本地震の橋梁等構造物の被害状況について」を松田泰治熊本大学大学院教授が講演されました。また第3回目は「九州地方整備局i-Constructionの取組について」を九州地方整備局企画部の安藤泰宣機械施工管理官が解説。第4回目以降は「建設生産システムの合理化」という大テーマのもと、日建連の3名が講師を担当。「i-Constructionの流れを受けた生産性向上活動について」を河野重行氏が、「コンクリート工の生産性向上について」を津川優司氏が、最後に「ICTを活用した生産性向上」を鈴木正憲氏が説明されました。

## インターンシップ講演会

- 主催/長崎大学
- 日時/平成28年12月13日 ■場所/長崎大学



### 参加者の声

事業を企画しその予算などを計画する公務員、その計画を元に設計するコンサルタント、その設計を実際に施行するゼネコンそれぞれにとても魅力があると思った。ゼネコンは実際に構造物が建っていくのを現場でみていくことができるので達成感や使命感は、他の2つの業種より大きいと思った。コンサルタントは社会の変化とともに設計も変わっていくので大変なこともありそうだったけれど、自分の考えた設計で構造物が作られるのはやりがいがあると思った。公務員は、地域に密着できるので、人と人の関わりを大切にできるので、地元にとっても貢献できると思った。どの仕事についてたとしても、土木の仕事は社会の役に立つしそれぞれの立場でやりがいがあると思う。 工学部工学科社会環境デザイン工学コース/野口 捺菜

ゼネコン、コンサルタント、公務員のどれになるにしてもコミュニケーション能力は不可欠なのだと思う。残業に関しては良いイメージが無いが、今後変わってくる可能性があるということで、業界全体が良い方向になれば、ゼネコンやコンサルタントの希望者がより増えるような気がする。どの職種もメリット、デメリットがあり、本当に就職が悩むところだが、最終的には、自分がやりたいと思える仕事を選ぶことが将来ずっと同じ職を続けていくには良いだろうと思う。 工学部工学科社会環境デザイン工学コース/道向 浩之

## 平成28年度インターンシップ講演会に講師を2名派遣!

日建連九州支部は毎年、長崎大学工学部工学科社会環境デザイン工学コースの要請によって会員企業から社員を派遣し、「インターンシップ講演会」で講演を行っています。これは、就職を控える学部学生および大学院生に対し、土木事業に携わる建設業者やコンサルタント業者、公務員の「生の声」を届け、進路決定に役立ててもらうための企画。平成28年度は熊谷組九州支店と前田建設工業九州支店から2名が派遣され、学生に建設業の業務内容や仕事のやりがいなどを説明しました。

## 安全環境委員会活動

### 現場点検の実施状況および講習会の開催状況

#### 〈平成28年度 安全環境委員会の主要活動〉

部会別区分	現場点検			講習会受講者	
交通	2回	3現場	6名	1回	69名
地下埋	0回	0現場	0名	1回	47名
火薬類	2回	6現場	12名	1回	47名
環境	2回	6現場	12名	1回	66名
計	6回	15現場	30名	4回	229名



### 平成27年度 本部表彰現場

#### 〈交通対策優良現場〉

- 株式会社大林組九州支店
- 椿山トンネル工事事務所
- 東九州道(清武～北郷)椿山トンネル新設工事
- 発注者/九州地方整備局

#### 〈環境対策優良現場〉

- 前田建設工業株式会社九州支店
- 調川トンネル作業所
- 長崎497号調川トンネル1号新設工事
- 発注者/九州地方整備局

## 団体の概要

### ■一般社団法人日本建設業連合会

#### ■設立

(社)日本建設業団体連合会(旧日建連)、(社)日本土木工業協会(土工協)、(社)建築業協会(建築協)の三団体は、平成23年4月1日に合併し、(社)日本建設業連合会(日建連)として新たに発足しました。また、平成25年4月に一般社団法人に移行しました。建設業界が大きな転換期を迎えつつある今、建設業団体としての機能を一層強化・拡充し、建設業の発展に向けた活動をより強力に展開してまいります。

#### ■目的

日本建設業連合会(日建連)は、日本を代表する総合建設業者を主な構成員とする団体です。日建連は、建設業に係る諸制度をはじめ、建設産業における内外の基本的な諸課題の解決に取り組むとともに、建設業に関する技術の進歩と経営の改善を推進することにより、わが国の建設産業界の健全な発展を図り、もって国民生活と産業活動の充実に寄与すること、を目的としています。

#### ■会員

日建連は、建設業界の連合組織であり、正会員である団体会員と法人会員、および特別会員によって構成されています。

- 法人会員…一定規模以上の総合建設業者
- 団体会員…主に総合建設業者で構成する事業者団体

さらに、日本国内で事業活動を行っている外国の建設業者及び、建設業に密接に関連する事業を行っている法人を対象にした特別会員制度も設けています。

平成29年2月1日現在の会員数は、法人会員139社、特別会員8社です。

#### ■役員

総会において理事、監事が選任されます。任期はそれぞれ2年となっています。協会活動の円滑な運営を図るため、理事会の決議により会長、副会長、事務総長、専務理事、常務理事を置いています。

#### ■機関

事業を推進するため、次の機関を設置しています。

- ①総会  
定時、臨時の2種類があり、定時総会は毎年4月に開催されます。事業計画、収支予算、役員を選任など協会活動の基本的な諸事項について審議、決定します。
- ②理事会  
通常、毎月1回開催され、総会に付議する事項や総会の議決を要しない会務に関する事項を審議、決定します。
- ③事業本部および委員会  
協会活動の中心となる調査研究組織であり、2つの事業本部と2つの特別委員会、26の委員会を設けています。委員は会員各社から募り、建設業に係る諸問題について調査研究活動を行っています。
- ④支部  
全国9地区に支部を設置しています。支部には、支部長、副支部長、運営委員、監査委員を置き、本部の活動方針に基づく活動を行っています。
- ⑤事務局  
本部、支部それぞれに事務局を設置しています。

### ■九州支部の概要

#### ■設立

当支部は、本部の合併により、平成23年4月1日から(社)日本建設業連合会(日建連)の九州支部となりました。支部の活動は、引き続き従来どおりの活動を行うとともに、3団体合併の主旨に則り、建設産業全体の健全な発展へ向けた諸活動をより強力に展開してまいります。

#### ■会員

支部の会員は「九州地区において本社・支店等を有し建設業を営業者で、かつ、本部会員である者」に限られています。

また、九州地区に本社・支店等がなくても、本部正会員であれば、支部の会員になることができます。

したがって企業規模・技術水準・社会的信用などあらゆる面で真に業界を代表するに足る企業によって構成されている団体です。

設立以来の会員数は平成29年2月1日現在で59社を数えています。

#### ■役員

支部長は総会において、支部長候補者の了承後、会長から任命されます。副支部長は総会で選任された運営委員の互選により支部長が任命します。副支部長は5名を置いています。監査委員は総会において推薦者の了承後監事が指名します。任期はそれぞれ2年となっています。

#### ■事業

本支部は次のような事業を行っています。

- ①災害対策への対応
- ②公共工事の円滑な実施
- ③安全・環境対策等の推進
- ④請負契約制度の改善及び積算の適正化と資材対策の推進
- ⑤技術開発の推進
- ⑥電力施設建設事業、鉄道建設事業、海洋開発建設事業の推進
- ⑦広報活動の推進

#### ■委員会

支部活動の中心となる調査研究機関として、広く会員から委員を募り、総務広報委員会、契約委員会、積算資材委員会、電力委員会、鉄道委員会、安全環境委員会、建築委員会を設置しています。

#### ■沖縄支所

沖縄地区での活動を実施するため、平成8年6月から沖縄に支所を置いています。支所に所属する会員数は40社を有しています。

一般社団法人日本建設業連合会九州支部会員

(五十音順 平成29年2月1日現在59社)

ア

アイサワ工業(株)九州支店  
青木あすなろ建設(株)九州支店  
あおみ建設(株)九州支店  
(株)浅川組九州営業所  
(株)安藤・間九州支店

イ

岩田地崎建設(株)九州支店

ウ

梅林建設(株)

エ

(株)エム・テック九州支店

オ

大木建設(株)九州支店  
(株)大林組九州支店  
(株)大本組九州支店  
(株)奥村組九州支店  
オリエンタル白石(株)福岡支店

カ

鹿島建設(株)九州支店  
鹿島道路(株)九州支店  
株木建設(株)九州支店

キ

九鉄工業(株)

ク

(株)熊谷組九州支店

コ

広成建設(株)九州支店  
(株)鴻池組九州支店  
五洋建設(株)九州支店

サ

佐藤工業(株)九州支店  
三軌建設(株)  
三幸建設工業(株)九州支店

シ

清水建設(株)九州支店  
ショーボンド建設(株)九州支店

セ

西武建設(株)九州支店  
(株)銭高組九州支店

タ

大成建設(株)九州支店  
大成ロテック(株)九州支社  
(株)竹中工務店九州支店  
(株)竹中土木九州支店  
大日本土木(株)九州支店  
大豊建設(株)九州支店

テ

鉄建建設(株)九州支店

ト

東亜建設工業(株)九州支店  
東急建設(株)九州支店  
東洋建設(株)九州支店  
戸田建設(株)九州支店  
飛島建設(株)九州支店

ニ

西松建設(株)九州支社  
日特建設(株)九州支店  
日本国土開発(株)九州支店

ノ

(株)ノバック九州支店

ヒ

(株)ピーエス三菱九州支店

フ

(株)福田組九州支店  
(株)フジタ九州支店  
(株)不動テトラ九州支店

ホ

(株)本間組九州支店

マ

前田建設工業(株)九州支店  
松尾建設(株)

ミ

三井住友建設(株)九州支店  
みらい建設工業(株)九州支店

ム

村本建設(株)九州支店

モ

(株)森本組九州支店

ヨ

(株)吉田組九州支店  
寄神建設(株)九州支店

リ

りんかい日産建設(株)九州支店

ワ

若築建設(株)九州支店

役員

支部長	大成建設(株)九州支店長 寺本 剛啓	副支部長	(株)安藤・間九州支店長 小松 健
副支部長	西松建設(株)九州支社長 宮崎 文秀	"	鉄建建設(株)九州支店長 城本 政雄
"	梅林建設(株)社長 梅林 秀伍	"	(株)大林組九州支店長 林 雅仁
運営委員	青木あすなろ建設(株)九州支店長 室井 明浩	運営委員	戸田建設(株)九州支店長 窪田 浩一
"	(株)奥村組九州支店長 大石 宏和	"	飛島建設(株)九州支店長 曾我部 真也
"	鹿島建設(株)九州支店長 河野 健吾	"	日本国土開発(株)九州支店長 冲長 靖央
"	九鉄工業(株)社長 古賀 徹志	"	(株)フジタ九州支店長 岡野 利喜造
"	(株)熊谷組九州支店長 梶山 雅生	"	前田建設工業(株)九州支店長 永重 雅守
"	(株)鴻池組九州支店長 竹下 浩	"	松尾建設(株)社長 松尾 哲吾
"	五洋建設(株)九州支店長 下石 誠	"	三井住友建設(株)九州支店長 緒方 滋
"	佐藤工業(株)九州支店長 八代 勇八	監査委員	大日本土木(株)九州支店長 須原 大介
"	清水建設(株)九州支店長 梅津 誠二	"	東急建設(株)九州支店長 清水 正敏
"	(株)銭高組九州支店長 衛藤 洋一	"	(株)不動テトラ九州支店長 濱野 尚則
"	(株)竹中土木九州支店長 森田 英仁		